

未来への責任

気候変動や新型コロナウイルス感染症の拡大、ロシアのウクライナ侵略等、世界的な課題が地域における課題と直結する時代となってきております。社会構造が大きく変化し、複雑・多様化する新たな課題に対しても、ICTや科学技術等の新たな知見を活かしながら、政治や行政も変化し続ける必要があります。



三日月大造知事に令和5年度予算と施策に関する提言書を提出

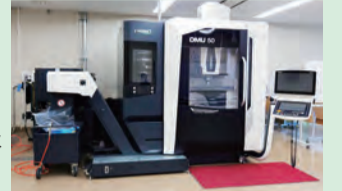
2月14日から3月15日まで、来年度予算を審議する2月定例会議が行われます。環境と社会と経済が調和した新たな社会の構築に向け、すべての人に笑顔と希望があふれる「輝くまち」が築けるようしっかりと議論を行ってまいります。

成田 政隆

監査委員の活動

現在、財務事務の執行および経営に係る事業の管理ならびにその他の事務の執行に関する監査をしています。事前に監査調査等の提出を求め、関係職員から、事業に関する説明の聴取および帳簿、書類等の照合を行い、質疑を行っています。

昨年5月から7月は、ここ滋賀や西部・南部森林整備事務所をはじめ出先機関に、7月8日は庁内の各部の局や課の監査を行い、11月には財政的援助団体等の監査、そして、本年1月からは県立学校および警察署の監査にまわっています。



瀬田工業高校に新たに導入されたドイツ製の5軸加工機

令和5年度当初予算見積【抜粋】（2月定例会議審議予定）

- ・子ども・若者向け広聴事業（488万円）
子どもの意見を尊重し、子どもの視点に立った施策立案につなげるため、子ども・若者向け広聴を試行する。
- ・びわこ文化公園都市大学連携事業（826万円）
健康・ウェルビーイング地域づくりを目指した研究連携の促進を図り、また、学生フレンドリーなまちづくりのための調査研究や学生アイデア実現への支援を行う。
- ・データ連携・分析推進事業（755万円）
効率的な行政サービスの提供に向けて、庁内の情報システム間のデータ連携の基盤を構築する。また証拠に基づく政策形成（EBPM）に活用するため、データ分析・可視化の仕組みを導入する。
- ・「近江の城」魅力発信事業（1193万円）
滋賀県が誇る文化財である「城」の魅力を全国に広く発信し、来訪者の拡大を図る。
- ・シンボルスポート創出支援事業（675万円）
国スポーツ大会の開催競技の地域での普及・定着に向けた取組やホストタウン交流で培った成果の継続・深化に資する取組への支援を通じて、地域のスポーツ振興やシンボルスポートの創出につなげる。
- ・琵琶湖環境に係る連携研究の推進（1288万円）
琵琶湖流域におけるプラスチックごみの収支・起源と情報発信に関する研究を行い、研究成果をプラスチックごみの発生抑制に向けた効果的な啓発施策等につなげる。

- ・水草刈取事業費（2億8827万円）
水草の表面刈取や根こそぎ除去を実施し、刈り取った水草は農地で有効活用し、資源循環を図る。また水草刈取船の更新を行う。
- ・つながりを大切にした孤独・孤立対策事業（289万円）
孤独・孤立に関する課題が顕在化・深刻化する中で、相談機関や地域の多様な居場所に関する情報発信、フォーラムの開催等により、必要な人に支援が届けられるよう取組を促進する。
- ・骨髄等移植ドナー助成事業費補助（192万円）
- ・協働で進める子ども・若者まんなか活動助成事業（3100万円）
社会全体で子ども・若者を支える環境づくりを進めるため、居場所づくりや若者の活動促進など、NPO等が行う多様な活動を支援する。
- ・ヤングケアラー支援体制強化事業（1289万円）
ヤングケアラーの相談に応じ支援する環境づくりを推進する。
- ・大河ドラマを活用した魅力発信事業（900万円）
- ・公共交通を活用した観光誘客強化推進事業（1237万円）
- ・魅力ある公園づくり事業（900万円）
県営都市公園におけるスケートボードの利用の在り方を協働により検討する。
- ・生きる力を育む「こども としょかん」事業（694万円）
県内の公共図書館等と連携し、滋賀ならではの「こども としょかん」のあり方検討や、すべてのこどもへ読書支援を行うための新たな事業の試行を行う。

散在性ごみについて

成田 「環境美化の日」の取り組みのこれまでの成果について

三日月知事 清掃活動の参加者数は、コロナ感染症拡大の影響により、令和3年度は17万人余りにとどまっているが、令和元年度以前の過去10年では毎年22万人から26万人余りであった。多くの県民の皆様にご参加いただくことで、ごみの散乱防止について、関心と理解を深めるとともに、琵琶湖等の美観の保持や快適で爽やかな県土づくりに繋がっている。

成田 「ピリカ自治体版」導入について

三日月知事 団体や個人が自らごみ拾いをした場所や拾ったごみの量などを投稿することにより、清掃活動の「見える化」ができるとともに、活動されるみなさんが楽しく続けられることや社会貢献活動の発信に繋がると考えられる。一方、エコフォスター制度には、登録団体の減少など様々な課題がある中で、本県に導入した場合に、登録団体や参加者の増加など活動の活性化につながるのかということについて、既に導入している自治体における実績や課題、費用対効果等を踏まえて検討してまいります。

ごみ拾い SNS「ピリカ」

ごみ拾い SNS「ピリカ」は2011年にリリースされ、2022年12月14日現在116の国と地域から累計2.7億個のごみが拾われています。累計ありがとう数は約1,500万、ごみ拾い活動を通じて多くのコミュニケーションが生まれています。自治体や企業による清掃活動の可視化と促進を目指す「見える化ページ」等の導入も拡大しています。さらに、画像解析による広範囲のごみ分布調査サービス「タカノメ」や、マイクロプラスチック調査サービス「アルパトロス」を通じて、海洋・陸のごみの流出状況をオープンデータで発表し、課題発見と解決に向けた協業・連携を展開されています。

成田 散在性ごみゼロ、ポイ捨てごみゼロに向けた取組の推進について

三日月知事 散在性ごみ対策については、一斉清掃活動などこれまで多くの方々の取り組みにより、一定の効果を上げてきた。しかし、近年は、エコフォスター参加団体の減少や、プラスチック問題など新たな課題も生じており、散在性ごみを取り巻く状況は大きく変化している。こうした状況に対応するため、SNSやAIなどの新たな手法を用いた情報発信のあり方、また調査方法を誰がどのように導入するのか、考えてみたい。今後は、こうした調査結果等も踏まえ、県民の皆さんや企業・団体、行政が一体となって、まずは出さない、そして発生源で対応することも含めて、より効果的な散在性ごみゼロ、ポイ捨てごみゼロに

向けた施策を展開し、琵琶湖をはじめ美しく住みよい湖国を次の世代に引き継いでいきたい。

成田 マイクロプラスチックとして県内の河川や琵琶湖に流出しているのかを把握し、分析していくことは今後の対策においても、非常に重要であるが、今後のプラスチックごみやマイクロプラスチックの継続的な調査について

三日月知事 県内の河川や琵琶湖に流出しているプラスチックを把握することは、流出防止の対策につながるため、重要であると考え。県ではこれまでプラスチックごみ等に関する調査や知見の収集を進めてきたが、今後、県内の河川や琵琶湖におけるプラスチックごみ等の流入や流出の状況を把握するための新たな調査研究等を検討してまいります。



ピワイチの日（11月3日）記念ライド「megumi」によるサイクルージング



滋賀ダイハツアリーナ開所式



大津市消防出初式（なぎさ公園）



土木交通・警察・企業常任委員会 県外調査（熊本城）



土木交通・警察・企業常任委員会 県外調査（広島電鉄株式会社）



土木交通・警察・企業常任委員会 県内調査（都市計画道路 原松原線）



角川武蔵野ミュージアム：図書館、美術館、博物館が融合したまったく新しいコンセプトの文化複合施設（所沢市）



アート、文学、博物などのジャンルを超えてあらゆる知を再編成したミュージアム



びわこ虫について

昨年11月中旬より、大津南部の湖岸から近い地域を中心に、「びわこ虫」が大量に発生しました。「びわこ虫」は通称であり、大発生したのは、11月から12月ごろに発生する「アカムシユスリカ」でありました。また4月と11月の年に二回発生する「オオユスリカ」や網戸などをすり抜ける「コナユスリカ」などのユスリカが、主に琵琶湖において生息しております。昨年は、琵琶湖の湖辺域に住む住民や、飲食店、コ

ンビニやドラッグストアなどの商業施設からも、「びわこ虫」の大量発生に関して、悲鳴があがっているなど、例年にない大量発生となりました。一般質問でも、「びわこ虫」、ユスリカの対策、ならびにその公表について、加えて、大発生は生態系における何かの信号であることから、水草との因果関係、琵琶湖のメカニズムにおける「びわこ虫」、ユスリカの位置づけなどを解明する必要があると考え、DXの時代だからこそ、様々なデータを蓄積・分析し、大量発生を回避するための方策について、研究していくべきだと提案しました。

